

【 3.組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	炭酸カルシウム (Calcium Carbonate)
化学式	CaCO ₃
CAS番号	471-34-1
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(1)-122
分類に寄与する不純物及び 安定化添加物	情報なし
濃度又は濃度範囲	情報なし

【 4.応急措置 】

吸引した場合	大量の粉塵が発生して、気管支に刺激がある場合には、速やかにその場所から離れてきれいな空気を吸い込むと、咳払い・痰・くしゃみ・呼吸困難は解消する。大量の粉塵を吸引した場合や、気分が悪い時は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 皮膚刺激等があれば、医師の診断を受ける。
目に入った場合	速やかに水で洗い流す。 洗浄後も痛みや目の赤みがとれない場合には、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は医師の診断を受ける。
予想される急性症状及び 遅発性症状	情報なし
最も重要な兆候及び症状	情報なし

【 5.火災時の措置 】

消火剤	この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤	周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
火災時の特有の危険有害性	特になし
特有の消火方法	特になし

【 6.漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終了するまで十分な換気を行う。作業時には、適切な保護具を着用し、粉塵を吸引しないようにする。
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起ささないようにする。製品がきれい乾燥していれば適当な容器に入れて廃棄する。
回収、中和	作業場に漏洩した場合には、ショベルで回収あるいは掃除機で吸引する。製品がきれい乾燥していれば適当な容器に入れて廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 二次災害の防止策	飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。 環境規制に従って汚染された物体およびな所をよく洗浄する。

【 7.取扱い及び保管上の注意 】

取扱い	
技術的対策	酸性物質との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。
局所排気・全体換気	必要ならば粉塵濃度を推奨暴露限界値以下に保つために、局所排気設備を設置または全体換気を適切に行なうことが望ましい。
安全取扱い注意事項	混合接触させていけない物質はない。
保管	
技術的対策	粉塵の発生を防止し、倉庫内でパレット上にて保管する。
混触危険物質	酸類
保管条件	直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
容器包装材料	特に指定なし

【 8. 暴露防止及び保護措置 】

管理濃度	設定されていない。
許容濃度(暴露限界値、 生物化学的暴露指標)	
日本産業衛生学会 (2019年版)	第3種粉塵 吸引性粉塵 2mg/m ³ 総粉塵 8mg/m ³
設備対策	粉塵が作業場所を汚染しないように、設備の密閉化・局所排気装置の設置または全体換気を適切に行なうことが望ましい。 推奨暴露限界値を超える粉塵濃度の場合、承認された防塵マスクを着用する。
保護具	呼吸器の保護具
	手の保護具
	眼の保護具
	皮膚及び身体の保護具
衛生対策	必要に応じて適切な保護手袋を使用する。 必要に応じて適切な安全メガネを使用する。 必要に応じて適切な保護衣を使用する。 取り扱い後は手を洗うこと。

【 9. 物理的及び化学的性質 】

物理状態、色	白色粉末
臭い	無臭
融点・凝固点	825℃で熔融する。
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発状限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	不燃性
分解温度	約900℃で分解し、酸化カルシウムになる。
p H	ほぼ中性を示す。
動粘性率	データなし
溶解度	水にわずかに溶ける。0.0014%(25℃)
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
比重(密度)	2.7~2.8
相対ガス密度	データなし
粒子特性	特に無し

【 10. 安定性及び反応性 】

反応性・化学的安定性	常温・常圧下で安定。
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	粉塵の拡散。
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	特になし

【 11. 有害性情報 】

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷又 眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性、単回ばく露	情報なし
特定標的臓器毒性、反復ばく露	情報なし
誤えん有害性	情報なし

【 12.環境影響情報 】

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有毒性	情報なし

【 13.廃棄上の注意 】

残余廃棄物	一般産業廃棄物として地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処置を行う。

【 14.輸送上の注意 】

国連番号	該当なし
国連分類	該当なし
海洋汚染物質	非該当
国際規制	
海上・航空規制情報	非危険物
国内規制	
陸上規制情報	非危険物
海上・航空規制情報	非危険物
特別の安全対策	水濡れ・転倒・落下・損傷がないように積載し、荷崩れ防止を行う。

【 15.適用法令 】

労働安全衛生法	粉塵障害防止規則（第二条関係別表第一に掲げる作業）
---------	---------------------------

【 16.その他の情報 】

特に無し

本データシートは、本製品の工業的な一般的取扱いについて最新の情報を集めたものでありますが、完璧なものではありません。又、本データシートは、保証書ではありません。新たな情報を入手した場合は追加又は訂正されることがあります。本製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用するときは、ご需要家各位が安全性の評価を実施し、自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切なる措置をお取り下さるようお願い致します。